

ホールポスの軸を狙ってホールアウトするのが理想だそうです、これが意外と難しいのです



1組4~5人でホールを回ります。若い人も顔負けの元気ぶりです

プレーの順番の取りまとめをする、広崎老人会事務担当の渡辺さん



距離の長いホールに挑みます。これを3打で上がるという皆さんの腕前にびっくり

を慎むなど、ゴルフと同じマナーも取り入れられています。

1組のプレーに同行しましたが、歩いたり走ったりと意外と体力がいります。お互いにプレーを褒め合ったり励まし合うなど、和気あいあいとした時間が流れます。

「10日に1回、開催しており、どなたもいつも楽しみにやって来られます」と話すのは、老人会の事務を担当する渡辺勝さん(77)です。最高齢の川口喜一郎さん(86)は、「体の運動によかばってん、皆さんと一緒にだと元気が湧きます」と笑顔を見せます。

「ちょっとやってみらんね」と中村国博さん(81)に促されて、筆者も5メートルの距離からホールポスを狙ってみました。クラブの芯にボールを当てて打つのがこつだそうです、これがなかなかうまくいきません。「簡単なようで、やおいかんでしょうが。家のかあちゃんと同じ」と中村さんが笑います。暖かい朝日を浴びながら、皆さんは元気な汗をかいていました。

木山往還の「切通し」

老人会の皆さんがグラウンドゴルフを楽しんでいたグラウンドは高台にあります。その南側に走る道はかつて木山往還と呼ばれ、木山城から健軍神社へと続いていました。道の両脇が高台に囲まれた景色が続きます。「これは、人や物の流れを良くするため、また、敵の侵入を撃退するための『切通し』と呼ばれた地形の名残です」と、町生涯学習課学芸員の森本星史さん(39)が教えてくださいました。



九州縦貫道の高架下手前まで続く「切通し」の地形の名残り。かつての木山往還



さくら病院の周辺に建設中の新興住宅

また広崎1町内北部のさくら病院周辺では、土地区画整理事業により新興住宅建設が進んでいます。森本さんは、「この辺りでは縄文時代の深鉢などの土器が出土しており、古代から人々が暮らしていたことが分かっています」と話します。

現在は、九州縦貫道の益城熊本空港インターや、阿蘇くまもと空港へのアクセスが便利で、隣接する熊本市東区の大規模スーパーや飲食店、病院も点在するなど暮らしやすい環境が整っています。続々と建設中の住宅群に、今後の町の人口増加と発展に期待が寄せられます。